

かわにし創生総合戦略推進会議からの意見

1. 全体への意見

- (1) 若い夫婦の転入が多いことが川西市の大きな特長だと言える。統計でも 30 歳代、0~9 歳が転入超過になっている。「若い世代の奪い合いに勝つ」といった発想ではなく、子育て中の親や小さな子どもに優しいまちは、高齢者にも障がい者にも優しいまちになるという視点が大切。ここを中心にまちづくり戦略を考えていってはどうか。
- (2) 川西市の 5 年後、10 年後のありたい姿を議論するとき、不足している点の指摘にとどまらず、ありたい姿と現実とのギャップをどうやって埋めていくかを考えることが大切である。
- (3) 情報発信の方法として、市広報やホームページ以外にもインスタグラムやフェイスブック等、様々な媒体がある。届けたい人に効果的な情報発信の方法を適切に選択することが大事である。

2. 各班への意見

【1班 産業の活性化】

- (1) 川西ブランドを確立するためには、「川西市はこんなまち」という市民全体で共感を持てるイメージが大切ではないか。
- (2) 生産緑地を農地として引き続き保全するか、宅地化などを進めるかで川西市が大きく変わる可能性がある。解除期限が 2022 年であり、現状と所有者の意向把握を急ぐ必要がある。
- (3) キセラ川西を「新名所」としてどう活性化させるか、市民としても考えていきたい。

【2班 子育て・教育の充実】

- (1) 市は、出産・子育てに関する情報提供アプリや施設・サービスを整備しているが、利用者のニーズに合っていない場合や、必要な人に情報が届いていない場合があるのではないか。
- (2) 産前産後のケアの充実が求められている。
- (3) 出産・子育て・教育は、母親も父親も主体的に関わっていくことが大切。事業や施策を考える上で常に意識してほしい。

【3班 住宅都市としての魅力向上】

- (1) 防災マップを子どもが自分たちで作成すると良いものが出るし、意識が高まると考える。
- (2) 安全・安心なまちづくり、防犯・防災の観点から、空き地・空き家を適正管理していくことが重要である。
- (3) 地域のコミュニティ力を高めたいと考えるのか、自分の地域の自分の行動を考えるとそこまでこだわらないのか、市民として議論して欲しい。
- (4) やりたい人が取り組むことによって地域のコミュニティ力を上げる方法も検討してはどうか。

【4班 文化・歴史の活かし方】

- (1) 源氏がめざしたものを今の時代として捉えて、それを川西市のイメージやまちづくりに活かしていくことが大切である。
- (2) 転入してきた人に、もっと川西市の文化・歴史情報を提供できるとよい。
- (3) 子どもが、多田神社や史跡について、実際に現地で専門家の話を聞く機会を設けてはどうか。

【5班 生きがいと地域交流の促進】

- (1) 「やりがいの持てる地域活動の促進」への名称変更を了解する。
- (2) このテーマを議論する上で、まず既存事業や施策の情報を整理することが大切である。
- (3) 特にこのテーマは、他の班との連携が重要である。

以上